



BRITISH AMERICAN
TOBACCO

イノベーションによる 多様な選択肢



責任を伴った 成長

ハーム・リダクション・フォーカス・レポート
(2018年版)

ブリティッシュ・アメリカン・タバコ(BAT)・グループの戦略とサステナビリティ・アジェンダ

BATグループのビジョンは、「たばこおよび次世代の製品で、満たされたひとときを消費者に提供する、世界一の企業となること」です。当社の戦略は、成長、生産性、優れた組織、持続性の4つの主要分野に重点を置いています。

重点戦略分野のひとつであるサステナビリティは、当社グループの戦略の実現に不可欠な要素であり、当社ビジネスのあらゆる分野に組み入れられています。特に、以下の3つの主要分野に関しては、その重要性を詳細に検討した結果、当社のビジネスおよびステークホルダーにとって非常に大きな意義を持つものとしています。

ハーム・リダクション

健康リスク低減の可能性を秘めた製品(potentially reduced-risk products ; PRRPs)を成人の消費者に幅広く提供することにより、喫煙がもたらす公衆衛生上の影響の低減に取り組んでいます。

持続可能な農業と農業従事者の生計

当社に葉たばこを供給する全ての農業従事者が豊かな生活を実現できるよう取り組んでいます。

企業としての行い

最高水準の企業行動と透明性に基づいて活動することに力を注いでいます。

当社の年報サステナビリティ・レポート(Sustainability Report)には、上記3分野における実績が掲載されています。

また、サステナビリティ・アジェンダの各分野について詳細に記したフォーカス・レポート(Focus Report)も作成しています。本フォーカス・レポートは、特に、ハーム・リダクションの分野に焦点を当てています。

ハーム・リダクションとは？

ハーム・リダクションとは、公衆衛生上の確立された考え方であり、本質的にリスクのある活動の影響を、その活動を完全に止めることなく最小限に抑える実用的な方法を模索するものです。

当社のたばこハーム・リダクションへの取り組みでは、喫煙やニコチンの摂取を続けたいと思っている成人喫煙者が、「健康リスク低減の可能性を秘めた製品 (PRRP)」として知られる製品を利用できるようにすることに重点を置いています。PRRPという用語は、現時点での最新の科学に基づき、その製品のみでの使用に切り替えた場合に、紙巻たばこの喫煙を続けるよりも、健康リスクを低減することが示されている／健康リスクを低減する見込みがある／健康リスクを低減する可能性があるたばこ製品およびニコチン製品を指すものとして用いています。

当社の多様なPRRPポートフォリオ



ペーパー製品(電子たばこ)*

バッテリー式の携帯型デバイスで、吸入するためのペーパー(霧)を発生させます。たばこを含まない代替製品の中で最も人気があるペーパー製品は、イングランド公衆衛生庁(Public Health England)によると、喫煙と比べて健康リスクが約95%低減していると推定されています。

→ 4ページ



加熱式たばこ製品(THP)

THPは、たばこを加熱しますが、たばこが燃焼することがないため、有害物質の主な発生源である煙が生じません。THPは、たばこを燃焼させるのではなく加熱することにより、喫煙の場合と比べて健康リスクを低減する可能性があることが研究によって示されています。

→ 6ページ



オーラル製品*

オーラル製品は、通常たばこを含んでいますが、燃焼することはありません。「スヌース」に完全に切り替えると、喫煙の場合と比べて健康リスクが著しく低減するという強力な疫学上の根拠があります。

→ 8ページ

目次



1

はじめに

ハーム・リダクションの道のり 2

外部の見解：
ステークホルダーの視点 3



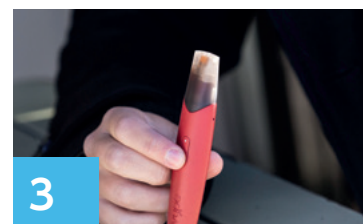
2

当社のPRRPポートフォリオ

ペーパー製品 4

加熱式たばこ製品(THP) 6

オーラル製品 8



3

PRRPによる ハーム・リダクションの 可能性の最大化

ハーム・リダクションにおける
イノベーションの重要性 10

科学を通じた当社製品の
信頼性の構築 12

相次ぐ第三者による科学的根拠 14

効果的な規制と責任を伴った
成長の重要性 16



4

今後の方向性

ハーム・リダクションの未来の形成 19

当社のたばこハーム・リダクション
への取り組み 20

* 当社のペーパー製品「Vuse」およびオーラル製品「Grizzly」「Camel Snus」「Kodiak」は、米国のみで販売されています。これらの製品は、FDA(米国食品医薬品局)の規制の対象であり、FDAの認可を得ずに健康リスク低減に関する文言を使用することはありません。また、日本においては、ニコチンを含有するペーパー製品は、法令上医薬品としての承認なく販売することはできません。2018年12月現在、当社は日本においてペーパー製品を販売していません。

「BATは、喫煙に代わり、満足感をもたらす代替製品を消費者に提供することによって、たばこの改革に取り組んでいます。」



最高経営責任者(CEO)としての8年間を含め、37年間勤めたBATを、2019年4月に退職します。私は、当社のハーム・リダクションへの取り組みに対し、常に誇りを抱いてきました。ハーム・リダクションは、私たちが何十年にもわたって取り組んできた分野であり、何百万ポンドもの投資を行ってきたものの、簡単に実現できるものではありませんでした。

しかしながら、近年、たばこ業界はこれまで経験してきた中でも最もダイナミックな変化の時代を迎え、たばこハーム・リダクションの分野において著しい進歩が見られるようになりました。テクノロジー、社会的変化、公衆衛生に関する意識がcaつてない形で組み合わさった結果、消費者は、これまでよりもはるかに幅広い代替製品を利用できるようになりました。国際的な専門家の多くは、こうした代替製品は喫煙よりも健康リスクが低い可能性があると考えています。例えば、ペーパー製品は、健康リスクが約95%低減していると推定されています。

BATに関し、私は2012年以降の目覚ましい進歩をとりわけ誇りに感じています。CEOを引き継いで間もない2012年、「たばこおよび次世代の製品で、満たされたひとときを消費者に提供する、世界一の企業になる」という、新たなビジョンを掲げました。こうして、消費者、そして健康リスク低減製品の開発を主導するという望みを当社の戦略の中心に据えたのです。ここから、BATの116年の歴史において最も意義深い改革が始まりました。

この節目以来、健康リスク低減の可能性を秘めた製品(Potentially Reduced-Risk Products)を幅広く世に送り出すため、当社は研究開発

(R&D)に対するアプローチを根本的に変えてきました。こうした製品を総称してPRRPと呼んでおり、現在、全世界で合わせて28か国で販売しています。また、2017年のレイノルズ・アメリカン(Reynolds American)社の買収に伴い、当社は、地理的にも消費者の裾野の面でも著しく拡大しました。当社は、革新的かつこれまでよりもさらに多様なPRRPポートフォリオにより、より強力で、真にグローバルな企業となっています。

誇るべき多様な製品ポートフォリオ

現在、当社の製品ラインナップには、ペーパー製品や加熱式たばこ製品に加え、オーラルたばこ製品やニコチン製品があります。代替製品への切り替えを考えている消費者は、一定の道のりを迎える必要があると私は考えています。その道のりにいて重要な部分を占めるのが、自分に合った適切な代替製品に出合えるということです。適切な製品がなければ、たばこハーム・リダクションは決して現実のものとはなりません。だからこそ、当社は卓越した製品ポートフォリオの開発を、ハーム・リダクションの取り組みの中心に据えているのです。

私は常々、多様な製品の提供が不可欠であるという信念を抱いてきました。なぜならば、消費者にはそれぞれ違いがあり、嗜好やニーズも様々であるからです。ひとつの製品が誰にでも適用するというアプローチは、上手くいきません。そのため、PRRPによるハーム・リダクションへの貢献の可能性を最大限活かすには、利用しやすいフォーマットで、清潔で手間のかからない代替製品を、味わいに対する嗜好が様々に異なる喫煙者それぞれに適するように提供していく必要があります。

たばこハーム・リダクションにおいて当社が果たすべき役割ははっきりしていますが、まだ長い道のりがあります。当社は、製品ラインナップの開発と商品化に多額の投資を行うとともに、全カテゴリーにわたる革新的な製品の強力なパイプラインを有しています。2019年には、そうした革新的な製品のいくつかを発売する予定です。

しかし、当社は、当社事業の範囲内だけで投資を行っているわけではありません。これまでとは全く異なる、創造的破壊をもたらすような技術的なソリューションにもますます目を向けるようになっていきます。そうすることで、消費者が適切なPRRP、すなわち、自分に合っており、かつ、切り替えたいと感じるPRRPを見つける手助けができるのです。それができてはじめて、たばこが社会にもたらす健康

リスクの低減に貢献することができるのです。

科学を通じた信頼性の構築

PRRPはまだ比較的新しい製品カテゴリーです。健康リスクを低減するというこうした製品の特性を信じ、理解した上で、消費者が納得のいく選択を行えることが不可欠です。そうするために、強固な科学的枠組みを整えなければなりません。同様に、当社の科学評価の結果を、関心を持つ全てのステークホルダーに提供する必要もあります。そうすることにより、規制当局も健康リスク低減の可能性を理解することができ、たばこハーム・リダクションに貢献することを目的に、こうしたカテゴリーの成長を支援できるようになるのです。私は、当社が科学研究の最前線に立ち、その研究成果を常にオープンかつ透明性を持って公開していることに、誇りを抱いています。

責任を伴ったPRRPの成長の促進

当社がこれまでに成し遂げた進歩を喜ばしく思っています。しかしながら、課題もあります。その多くは、当社だけでは解決できません。こうした製品がその可能性を十分に発揮できるのは、規制・市場の両面において適切な条件が整っている場合に限られます。たばこハーム・リダクションを成功させるためには、政府、産業界、公衆衛生のステークホルダーが協力し、そのための環境を作り出していく必要があります。

BATのハーム・リダクションの未来

世界には今も11億人の喫煙者がいますし、疑いなく、私たちは長い道のりの第一歩を踏み出したばかりです。しかし、この素晴らしい会社のCEOとしての8年間を終えるに当たり、当社はその取り組みの成果を出すことができると、私は確信しています。

当社では、明確なビジョンと優先事項を定めています。たばこおよび次世代の製品で、満たされたひとときを消費者に提供する、世界一の企業というはっきりとした目標を持っており、取り組み始めた改革を加速させるための能力を十分に備えています。

後継者に引き継ぐにあたり、本当に信頼できる人の手に会社を委ねることができると考えています。たばこの改革を行うというBATのミッションは、まだ始まったばかりなのです。

ニカンドロ・デュランテ
(Nicandro Durante)

最高経営責任者 2018年12月

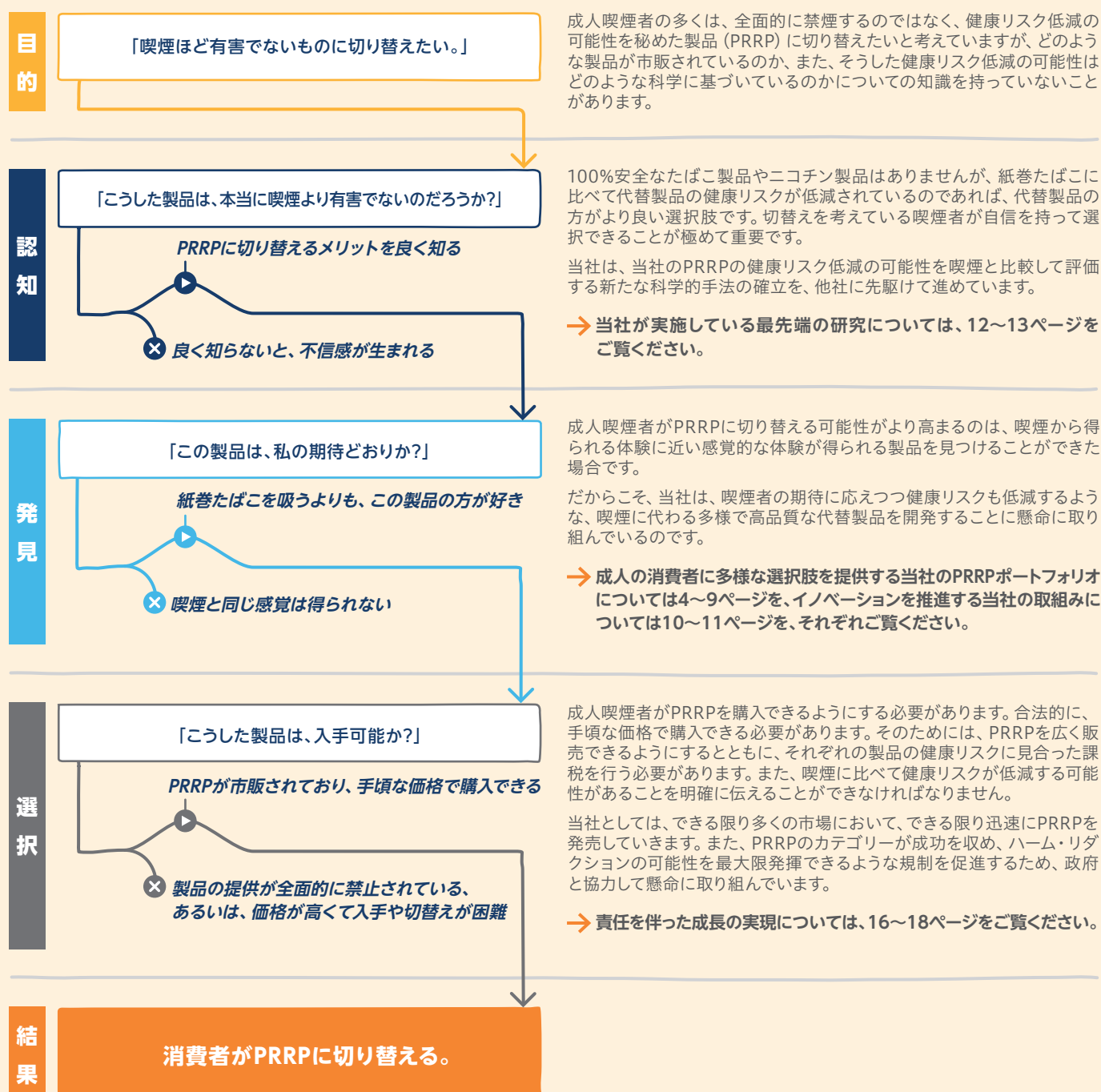
はじめに

ハーム・リダクションの道のり

たばこに関連するハーム・リダクションは、消費者が健康リスクの高い製品(紙巻たばこ)から、より健康リスクの低い製品に切り替えることによってのみ達成できます。こうした変化の中で、喫煙者は多くの段階を経ながら、それぞれの段階で重要な問いかけをする傾向があります。以下は、その切替えの道のりを示したものです。本レポートでは、この道のりを詳しく考察します。

成人喫煙者の懸念

ハーム・リダクションの機会



外部の見解

臨床健康心理学の教授であるソール・シフマン博士(Dr Saul Shiffman)による、たばこハーム・リダクションについての専門家の視点をご覧ください。



略歴

シフマン博士は、ニコチンとたばこに関する行動研究を45年間にわたって続けており、400以上の科学論文を発表してきました。また、健康に関する世界的なコンサルティング会社であり、たばこハーム・リダクションの実践に取り組んでいるピニー・アソシエーツ(Pinney Associates)社のシニア・サイエンティフィック・アドバイザー(Senior Scientific Advisor)も務めています。

シフマン博士は、ニコチン・たばこ研究学会(Society for Research on Nicotine and Tobacco)が「臨床研究の画期的業績」に授与するオービット・フェルノ賞(Ovid Ferno Award)など、臨床研究・行動医学分野における業績に対し、数々の著名な賞を受賞しています。

たばこハーム・リダクションは、現在実施できる中でも最も有望な公衆衛生政策のひとつであり、多くの人々の命を救う可能性があります。たばこハーム・リダクションの考え方はシンプルで、説得力があります。人々が紙巻たばこを吸うのは、また、そのリスクについて警告を受けているにもかかわらず喫煙を続けるのは、ニコチンを摂取するためだという多くの科学的根拠があるのです。

しかし、紙巻たばこの煙に含まれているのは、ニコチンだけではありません。燃焼の過程で生じた数千もの化合物が含まれており、人間の健康に有害であることが知られている化合物も多く含まれています。たばこハーム・リダクションの考え方は、喫煙を止めようとしないうちに喫煙者が、こうした健康リスクのある燃焼生成物を摂取することなくニコチンが摂取できる製品へと切り替えることを促すことなのです。

「PRRPに関する主張において重要なのは、喫煙よりも健康リスクが大きく低減されているという点であり、PRRPが完全に安全であるという点ではありません。」

にもかかわらず、喫煙者によるPRRPの選択は遅々としています。PRRPに関する誤解が広まっているため、PRRPの選択が妨げられています。一般市民、医療専門家、政策立案者のあまりにも多くが、オーラルたばこ製品やペーパー製品、加熱式たばこなどのPRRPは、燃焼を伴う従来型の紙巻たばこと少なくとも同程度に有害であると考えていますが、これは科学的根拠に反しています。これらの誤解は、たばこハーム・リダクション反対派がPRRPを使用しないよう人々に警告していることに起因している面もあります。

しかし、おそらく問題としてより重要なのは、研究者やメディアが、そして消費者自身も、**絶対的な健康リスクと相対的な健康リスク**とを区別していないこ

とです。私たちは、有害な可能性がある成分や、PRRPに含まれている成分に関する記事を、毎日のように目にしています。しかし、そうした記事は、仮に科学的に正確であったとしても、PRRPと喫煙の曝露レベルを比較していないかったり、文脈の中で曝露量を示していないかったりと、脈絡を全く欠いていることがあまりにも多いのです。PRRPに関する主張において重要なのは、喫煙よりも健康リスクが**大きく低減**されているという点であり、PRRPが完全に安全であるという点ではありません。ハーム・リダクションやPRRPを巡る科学について一般市民や主要なステークホルダーが正確に理解を深める手助けをすることは、支援がなければ喫煙を続けるであろう喫煙者によるPRRPの選択を促す上で、大いに役立つと考えられます。産業、学界、健康関連の非政府組織(NGO)そして政府は全て、PRRPの購買層を啓発し、誤解を正す上で重要かつ補完的な役割を担っています。

製品のイノベーションと改良も、喫煙からPRRPへの移行を促進する上で重要な役割を果たします。ハーム・リダクションに取り組みれば、喫煙者はPRRPに切り替えたいと思う可能性があります。ところが、たばこハーム・リダクションの代替製品が紙巻たばこに代わるだけの十分な満足感を提供できなければ、喫煙者は切り替えるのが難しいと感じてしまう可能性もあります。ニコチン送達能力の向上であれ、感覚的な体験の改善であれ、喫煙からPRRPへの移行を促進する上で、製品のイノベーションは極めて重要です。

最近開発されたPRRPである電子たばこ加熱式たばこは、素晴らしいスタートを切っています。しかし、間違いなく、さらに良い製品が将来登場するでしょう。産業は、革新的なPRRPの開発において重要な役割を担っています。一方、政府の規制当局も、公衆衛生上の利益をもたらすため、製品のイノベーションを可能にする、あるいは、少なくともイノベーションを妨げないようにする、重要な役割を担っています。

当社のPRRPポートフォリオ

ベイパー製品

ベイパー製品(あるいは電子たばこ)は、液体(eリキッドと呼ばれ、通常ニコチンを含む*)を加熱することによって、吸入するためのベイパー(霧)を発生させます。たばこは含まれておらず、燃焼も起こりません。

オープン・システムのデバイス

eリキッドを詰め替える際に、自分の好みの味わいとなるようにフレーバーを混ぜ、消費者がベイピング(ベイパー製品の使用)体験をカスタマイズできます。

当社を代表する製品は「Vype eTank Pro」シリーズです。



クローズド・システムのデバイス

密閉式カートリッジにeリキッドが充填されています。eリキッドには、様々なフレーバーやニコチン濃度のものがあります。交換用カートリッジを購入すれば、消費者はデバイスを使い続けることができます。使用が簡単なこの方式は、バッテリーの強化などの頻繁なイノベーションのおかげで、ますます人気が出ています。

当社の主力ブランドは、全世界的には「Vype」です。米国では「Vuse」**が代表ブランドとなっています。

ベイパー製品により、たばこの改革が進んでいます

英国の成人電子たばこ利用者320万人のうち**52%**は、もはや喫煙していません¹。

英国市場では、禁煙プログラムの一環として、公衆衛生の専門家が既にベイパー製品を推奨しています²。

→ こうした改革を可能とした英国の政策枠組みについては、17ページをご覧ください。

2020年までには、世界の**7,500~8,000万人**の成人がベイパー製品を利用するようになると、当社は推定しています³。

当社のベイパー製品の販売地域



* 日本においては、ニコチンを含有するベイパー製品は、法令上医薬品としての承認なく販売することはできません。2018年12月現在、当社は日本においてベイパー製品を販売していません。

** 「Vuse」は米国でのみ販売されています。FDAの規制の対象であり、このブランドの製品については、FDAの認可を得ずに健康リスク低減に関する文言を使用することはありません。

1 ASH, "Use of e-cigarettes (vapourisers) among adults in Great Britain", September 2018.

2 The House of Commons Science and Technology Committee, Seventh Report of Session 2017-2019 on e-cigarettes, July 2018.

3 BAT推計(2018年10月16日のアナリスト向けブリーフィング: <http://www.bat.com/investorpresentations>)

社員の視点

革新的なベイピング体験：新製品「ePen 3」

「2014年の「ePen」の発売以降、私たちは、この便利でシンプルな方式のベイパー製品をさらに改良して消費者に提供できるよう模索し続けてきました。そして、最新のイノベーションのひとつ「Vype ePen 3」によって、その目標が間違いなく達成できたと考えています。

流線型のクローズド・システム方式のデザインで、強力なバッテリーが内蔵されています。フレーバー・ポッドは簡単に交換できます。ワンタッチで着脱可能なポッドを採用しているため、フレーバーやニコチン濃度を簡単な操作一回で変えることができます。さらに、ポッドは中の液体が漏れることがないデザインとなっているため、手を汚すことなくベイピング体験を楽しんでいただけます。

この製品に大いに満足しているのは、私のように開発に携わっている者だけではなく、英国での発売以降、「ePen3」がベイパー製品の消費者にも愛されていることは、当初の業績からも明らかです！」



テリー・アンジェル (Terry Angell)
製品開発担当マネージャー
(Product Development Manager)

ベイパー製品の健康リスク低減の可能性に関する第三者の見解

公衆衛生関連の機関・学界において、ベイパー製品は喫煙と比べて健康リスクが大幅に低い可能性が高いというコンセンサスが形成されてきています。イングランド公衆衛生庁 (Public Health England) は、こうした製品は「喫煙と比べて健康リスクが約95%低減している」と推定しています⁴。このほかにも、こうした製品の大幅な健康リスク低減の可能性を裏付ける第三者による科学・研究成果が、世界中で増え続けています。



「現在の知見に基づけば、『ベイピングは、喫煙と比べて健康リスクが少なくとも95%低減している』との表現は、より多くの喫煙者にベイパー製品への切替えを促す上で、(喫煙とベイピングの) 相対的な健康リスクの違いが大きいことを明確に公衆に伝える手段として引き続き適切である。」
イングランド公衆衛生庁⁵



「紙巻たばこが…電子たばこに完全に置き換えれば、紙巻たばこに含まれる多数の有害性物質や発がん性物質への消費者の曝露が低減するという決定的な根拠が存在する。」
米国科学工学医学アカデミー (U.S. National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine)⁶



「ベイピングは、喫煙よりも健康リスクが低減されている。紙巻たばこがベイパー製品に完全に置き換えれば、有害性・発がん性のある化学物質への喫煙者の曝露は大幅に低減されるだろう。」 カナダ保健省 (Health Canada)⁷

特集

カナダ：科学的根拠に基づいたベイパー製品規制の取組み

カナダ連邦政府は、PRRPに関し、実用的かつ科学的根拠に基づいた規制のモデル・ケースとなりました。こうした動きの根拠にあったのは、ベイパー製品がハーム・リダクションに寄与する可能性があることを政府が公に認めるとともに、あらゆる政策の枠組みは科学的根拠に裏付けられ、かつ、幅広い専門家の知見に基づかなければならないことを認識したことでした。

ベイパー製品の販売を合法化する法案が2016年に議会に提出された後、政府は、健康関連の専門家、たばこハーム・リダクションの提唱者やメーカーから助言を求めるために協議を行いました。また、科学諮問委員会を設置し、ベイパー製品に関する連邦政府の法的枠組みについての提言を行うよう、科学に基づくレビューを依頼しました。

協議の過程において、BATは技術的専門知識を提供するとともに、最高科学責任者 (Chief Scientific Officer) がカナダを訪れ、当社製品の基盤となっている科学について説明するとともに、メディアや一般市民からの生の質問に答えました。同様に、透明性という観点から、PRRPの基盤となっている科学や当社が採用している品質標準について理解していただくため、関心をお持ちのステークホルダーに、英国サウサンプトンにある当社の研究開発センターを訪問していただきました。

2018年5月、2年間の協議・科学レビューのプロセスを経て、法案が可決・成立しました。一連の連邦規制はまだ全面的には導入されておらず、連邦法と州法の間の調整が今も課題として残されていますが、カナダの消費者は、今では、当社の「Vype ePen 3」を含め、ベイパー製品を入手できるようになっています。



4 Public Health England, E-cigarettes: a new foundation for evidence-based policy and practice, August 2015.
5 McNeill, A., Brose, L.S., Calder, R. et al. "Evidence review of e-cigarettes and heated tobacco products 2018". Public Health England (2018).
6 U.S. National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine. "Public health consequences of e-cigarettes" (2018).
7 Health Canada, Overview of Canada's Tobacco Strategy, 31 May 2018.

当社のPRRPポートフォリオ

加熱式たばこ製品 (THP)

THPは、たばこをニコチンやフレーバーを放出する十分な温度に加熱しますが、たばこが燃焼するほどの高温にはなりません。このようにして、ニコチン、グリセリン、フレーバー、水分を含むエアロゾル(霧)が発生します。しかし、たばこの煙に含まれる有害性物質の多くは含まれていません。

電子型THP

バッテリー式のデバイスで、特別に設計されたたばこスティックを温め、たばこの味わいに近い吸いごたえを提供します。たばこを十分に加熱しますが、燃焼させることはありません。

当社の主力THPブランドは「glo」です。5大陸の専門家を結集し、英国でデザインされました。

カーボンチップ型THP

外観は従来の紙巻たばこに似ています。この製品は、発熱体としての役割を果たすカーボンチップ、たばこ部分、フィルターで構成されています。消費者は、カーボンチップに点火し、点火したカーボンチップによってたばこ部分が加熱されます。

当社最新のカーボンチップ型THPは、米国のFDA(たばこ製品およびニコチン製品の規制当局)の認可を受けています。

ハイブリッド型THP

eリキッド(通常、ニコチン含有*)を加熱し、霧化されたeリキッドがたばこポッドを通過する際にフレーバーが加わります。

当社を代表するハイブリッド型製品のグローバルブランドは「glo ifuse」です。



当社のTHPの販売地域



* 日本においては、ニコチンを含有するeリキッドは、法令上医薬品としての承認なく販売することはできません。2018年12月現在、当社は日本においてeリキッドを販売しておりません。

社員の視点

精密設計を通じた満足感をもたらす製品づくり

「たばこから排出される化学物質の特性、そして味わいは、温度によって変化します。そのため、『glo』開発時の私のチームの最大の課題のひとつは、紙巻たばこを吸うときよりも低い温度で、いかにして素晴らしい味わいを感覚的に体験していただけるかということでした。

そして、『glo』はまさにそれを実現するためにデザインされたのです。最高の体験を確実に提供するため、部分ごとに加熱することによって、たばこスティック全体が一度に加熱されないようにしています。精密に設計された小型オープンのようなものです。

もちろん、今日の消費者のニーズに合致した、高品質でコンパクトなデバイスをデザインすることもとても重要で、私たち全員が最終製品に満足しています。『glo』は、高性能の電子制御機能を備えているので、安定してフレイバーをお届けすることができ、満足感のある楽しい体験を提供することができます。」



ウィル・イングランド (Will England)
主席THP開発担当マネージャー
(Principal THP Development Manager)

THPの健康リスク低減の可能性に関する第三者の見解

THPは、たばこを燃焼させるのではなく加熱するため、喫煙と比べて健康リスクを低減する可能性があることが、研究によって示されています。

これまでに実施された研究の大半はたばこ産業によるものです。しかし、第三者による研究も増えてきており、心強いことに、当社による研究結果と概ね一致しています。当社は、第三者によるさらなるレビューを歓迎いたします。



ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)¹が委託した研究によると、THPの発生物質に含まれる主要発がん性物質のレベルは、紙巻たばこと比べて「著しく減少している」一方で、送達されるニコチンは同程度としている。



英国の食品・消費財・環境中の化学物質の有害性に関する委員会(有害性委員会)(Committee on Toxicity of Chemicals in Food, Consumer Products and the Environment; COT)は、加熱式デバイスによって生成されるエアロゾル中に含まれ、消費者が曝露する一部の有害および潜在的に有害な成分(HPHC)が、紙巻たばこの煙に含まれるHPHCより50~90%少ないとしている。²



「エアロゾルに含まれる懸念化合物への曝露は従来の紙巻たばこの煙よりも少ないため、THPに完全に切り替えた場合、喫煙者の健康にとっての健康リスクは、皆無にはならないものの低減する可能性が高い。」 英国有害性委員会²

特集

日本の経験

THPにより、日本におけるたばこの消費状況は、極めて急速に変化しつつあります。ごく最近までほとんど紙巻たばこしか販売されていませんでしたが、現在では、THPは日本のたばこ市場全体の約22%を占めると当社は推定しています。

当社は、主力THP「glo」を2016年12月に仙台で発売し、その後、2017年10月に全国展開しました。それ以降、「glo」の体験を最大限に楽しんでいたように、当社は、消費者のサポートに懸命に取り組んできました。THPは今なお比較的新しい製品です。そのため、デバイスに関する情報をお伝えしたり、お問い合わせに対してアフター・ケアを行ったりといったサポートを提供することが極めて重要であると考えています。こうしたサポートは、当社の「glo」ストアを通じて、また、当社に代わって「glo」を販売する販売店と提携しながら、提供しています。当社にとっては新しい方法ですが、製品に対する理解を深めるとともに、「glo」への切替えの道のりにおいて必要となるサポートを消費者に提供しており、成功を収めています。

また、喜ばしいことに、日本では「glo」が好評を博しています。2018年初めに3.3%であった「glo」の市場シェアは、10月現在、4.4%へと拡大しています。「glo」の成功の理由は、ハイテクで、健康リスクを低減する可能性のあるたばこの消費方法であることに加え、使いやすく、周囲への影響ははるかに少なく、周囲へより配慮したたばこの使い方を提供していることであると考えています。2018年に発売された新製品や新たなイノベーションにより、2019年も成長が続くと期待しています。



1 Mallock, N., Böss, L., Burk, R. et al. "Levels of selected analytes in the emissions of "heat not burn" tobacco products that are relevant to assess human health risks", *Arch Toxicol* (2018) 92: 2145. <https://doi.org/10.1007/s00204-018-2215-y>.
2 Statement on the toxicological evaluation of novel heat-not-burn tobacco products, The Committee on Toxicity of Chemicals in Food, Consumer Products and the Environment (COT), Department of Health UK, December 2017.

当社のPRRPポートフォリオ

オーラル製品

オーラル製品*には様々なタイプがあります。従来型の「スヌース」や嗅ぎたばこ、そして革新的で真っ白なパウチ状の製品、さらには医療用ニコチン置換療法製品まで幅広く、それぞれが異なる消費者の嗜好に答えています。オーラル製品に含まれているたばこの量はそれぞれ異なり、たばこを含むものもあれば、たばこの量が少ないもの、全く含まないものもあります。

スウェーデン型の「スヌース」

高品質たばこと食品用成分で作られたスウェーデン型の「スヌース」は、湿式のオーラルたばこ製品です。パウチに包まれたものと包まれていないものが販売されています。北欧諸国で特に人気があります。例えば、スウェーデンでは、現在、喫煙者よりも「スヌース」使用者の方が多くなっています。



現代的な白色のオーラル製品

オーラル製品における当社の最新イノベーションです。白色で、多種多様なフレーバーによって満足感のある体験を消費者に提供しています。二つ種類があり、ひとつはたばこの含有量を減らしたものの、もうひとつはニコチンを含むものの、たばこを含まないものです。

 たばこを含むパウチ

 たばこを含まないニコチン・パウチ



米国の湿式嗅ぎたばこ

米国で人気のある、一般的なタイプの湿ったオーラルたばこです。スウェーデン型の「スヌース」に比べ、それほど細かく砕かれていません。パウチに包まれたものと包まれていないものが販売されており、米国人の嗜好に合うようにフレーバーが付けられています。



ニコチン置換療法製品 (Nicotine Replacement Therapy)

医薬品規制の対象となるこれらの製品は、ニコチンを含んでいますが、たばこは含んでいません。当社の「Zonnic」のラインナップは、ニコチンを含む錠剤、スプレー式点鼻薬、パウチ入りのものがあります。「Zonnic」は、現在、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドで販売されています。



*「Grizzly」「Camel Snus」「Kodiak」は、米国でのみ販売されています。FDAの規制の対象であり、FDAの認可を得ずに健康リスク低減に関する文言を使用することはありません。

オーラル製品の 販売地域



特集

一層のイノベーション

改良と多様な製品が絶えず求められる変化の速い世界においては、革新的なオーラル製品に対する需要は今後も拡大し続けます。

EPOKは、まさにそうした世界にふさわしい製品です。EPOKには、特別な処理が施されたたばこが含まれており、煙が出ず手間のわからない体験を消費者にお届けします。

「EPOKは、スウェーデンとノルウェーで大幅に伸びており、2018年半ばまでに、それぞれ12%、8%の市場シェアを達成しています。」

男性に好評であったスウェーデン型「スヌース」とは異なり、EPOKは、男性・女性の両方から好評を博しており、たばこハーム・リダクションへの貢献の可能性が高まります。



スウェーデンの例

「スヌース」のみを使用することにより、喫煙と比べて健康リスクが大幅に減少することを裏付ける十分な根拠があります。専門家は、ハーム・リダクションの成功の観点から、しばしば「スウェーデンの例」について言及します。

スウェーデンでは、1970年代から80年代にかけて、特にスウェーデン人男性が喫煙から「スヌース」の使用へと徐々に移行し、数十年後には喫煙関連疾患の発生率が減少しました。

現在、スウェーデンの一日当たりのたばこ消費量は、EUの一日当たりの平均値とほぼ同じですが、喫煙率はヨーロッパの中でも特段に低くなっています。また、スウェーデンのたばこ関連疾患の発生率は最も低くなっています。以下に紹介した機関を含む多くの関係機関が、スウェーデンにおける紙巻たばこからの移行の重要な要因として、「スヌース」が広く入手できるようになったことを挙げています。

オーラル製品の健康リスク低減の可能性に関する第三者の見解

スウェーデン型「スヌース」に関しては、健康リスクが喫煙よりも大幅に低いことを示す疫学データが圧倒的に多く存在しています。



ロデュ(Rodu)とコール(Cole)の研究から、「スウェーデンの男性の『スヌース』使用量と紙巻たばこ消費量が逆相関の関係にあり、その結果、過去50年間のほとんどにおいて、肺癌死亡率(LCMR)が欧州で最も低い」³ことが明らかになっている。また、別の研究では、スウェーデンは口腔がんの発生率が世界で最も低い国のひとつであるとされている⁴。



「無煙たばこ(smokeless tobacco)は、紙巻たばこよりも遥かに発生物質が少なく、健康リスクの低い製品である。喫煙者がこうした製品に完全に切り替えれば、健康リスクが低減される可能性がある。スウェーデンにおける『スヌース』の使用は、その一例に当たると考えられる。」
ニール・ベノウィッツ(Neal Benowitz)教授(国際的に著名なたばこ中毒の専門家)⁵

- 1 "Harm reduction in nicotine addiction: helping people who can't quit." Tobacco Advisory Group of the Royal College of Physicians. Royal College of Physicians, 2007.
- 2 Nutt, David J., Lawrence D. Phillips, David Balfour, et al. "Estimating the Harms of Nicotine-Containing Products Using the MCDA Approach." *European Addiction Research* 20, no. 5 (2014): 218–25. doi:10.1159/000360220.
- 3 Rodu, B., Cole, P. "Lung cancer mortality: comparing Sweden with other countries in the European Union." *Scand J Public Health*. 2009 Jul, 37(5): 481–86. doi: 10.1177/1403494809105797. Epub 2009 Jun 17.
- 4 "Oral Cancer Death Rate by Country." World Life Expectancy. Accessed April 10, 2018. <https://www.worldlifeexpectancy.com/cause-of-death/oral-cancer/by-country/>.
- 5 Benowitz, N. L. "Smokeless Tobacco as a Nicotine Delivery Device: Harm or Harm Reduction?" *Clinical Pharmacology & Therapeutics* 90, no.4 (2011): 491–93. doi:10.1038/clpt.2011.191.

PRRPによるハーム・リダクションの可能性の最大化

ハーム・リダクションにおける イノベーションの重要性

健康リスク低減の可能性を秘めた製品(PRRP)で満足感のある体験を得られる製品が見つければ、成人喫煙者がそうした製品に切り替える可能性が高まります。これこそが、ハーム・リダクションを実現する上でイノベーションが非常に重要となる理由です。

当社は、この難題に挑戦し、喫煙と比べても十分な満足感と楽しい体験をもたらすものとして成人喫煙者に認めてもらえるような、高品質な代替製品を生み出したいと考えています。

今日の技術は急速に変化しており、私たちは、消費者と技術とがますますダイナミックに変化する状況の中で、取組みを進めています。確実に時代を先取りできるよう、当社は、単一の製品を製造するメーカーから、イノベーションの力を活用し、消費者に多様なPRRPポートフォリオを提供する会社への転換に向けて、重点的に投資を行っています。

当社は、常に次世代の先端技術を探し求め、成人消費者の選択肢を増やすことができるよう努めています。つまり、より先進的で、性能が高く、魅力的で、健康リスク低減の可能性を秘めた製品です。

そのため当社は、これまでとは全く異なる技術に大きな投資を行ってイノベーションを推進するとともに、多様なスキルを結集して社員の改革を図り、非常に優れた製品を発明・開発するために必要な能力の構築を進めています。

同時に、こうした革新的な新製品を最高の品質・安全基準に従って製造し続けることが不可欠であり、製品の安全性は、引き続き、当社の取組みにおいて極めて重要です。



イノベーション への投資

2012年以降、PRRPの開発・商品化に大規模な投資を行ってきました。毎年の研究開発費、そして全世界で1,500名を超える研究者は、PRRPパイプラインの開発に重点を置いています。

その一環として、たばこ産業の改革をもたらす、これまでにない新たな技術を見出すため、専任の技術チームが世界中の主要なイノベーション拠点で技術を探し求めています。



社員の改革

社員についても改革を行っています。例えば、当社の研究開発プログラムでは、家電製品や材料科学などの多様な分野から、イノベーションの専門家を採用しています。



製品の安全性

PRRPの技術およびイノベーションが急速に進化の中で、より一層重要なのは、企業がしっかりした品質・安全基準を遵守していることです。当社は、何十年にもわたって積み重ねた経験に基づき、当社のPRRPのラインナップに可能な限り高い基準を採用しています。



社員の改革

社員の視点

改革を推進する新たなスキル

「BATに最近入社したばかりですが、消費者製品の開発には20年以上に及ぶ経験があります。そのキャリアを通じて、これまでも変革を推進し、消費者が愛する素晴らしい製品を創出する機会に多く恵まれてきました。しかしながら、これほどの規模の変革は経験したことがなく、BATが有するこれほど驚異的な科学的根拠に支えられたこともありませんでした。

当社の製品は、その性質上、消費者が絶えず接触するタイプの製品であり、私の仕事は、多様な消費者のニーズを素晴らしい製品のデザインへと昇華させることです。そのためには、新たな「イノベーション力」、つまり、より多様な経歴の人材とのより緊密な連携から引き出される新たな思考様式を育む必要があります。

これまでとは異なった考え方ができるよう、当社では、社員の改革を進めています。私のチームは、多様なスキルと新たな洞察をもたらし、既に大きな成長を遂げています。また、新たな製品を生み出すため、働き方を変えとともに、より頻繁に様々なチームやアイデアをひとつにまとめるようにしています。つまり、イノベーションを育む環境を作り出すことが重要なのです。

BATの企業文化は、誠実でオープンで協調的であり、その一員であることに本当に誇りを感じています。このような胸躍る時期にBATの研究開発チームに加わったことは、私たち全員が個人として素晴らしい製品の開発に貢献できること、ひいては、たばこハーム・リダクションに貢献できるということだと思っています。」



カーリスタ・ムーア・コンデ
(Carlista Moore Condé)

THP製品開発担当責任者
(Head of THP Product Development)



製品の安全性

社員の視点

非常に優れた製品品質の確保



サンドラ・コスティガン博士
(Dr Sandra Costigan)
主席毒物学研究者
(Principal Toxicologist)

「PRRP関連の技術は急速に発展しており、BATのような企業や規制機関にとっては、こうした新製品が可能な限り最高の品質・安全基準に従って製造されるようにすることが不可欠です。

当社は、一企業として、製品の安全性に関して長年にわたる経験を有しており、非常に真剣に取り組んでいます。私のチームは、使用する原材料が入手可能な最高品質のものとなるよう、法的要件を上回るレベルを目指しています。

「私のチームは、使用する原材料が入手可能な最高品質のものとなるよう、法的要件を上回るレベルを目指しています。」

これは、実際にはどのようなことを意味しているのでしょうか？ 当社の製品に対しては、消費者の手元に届くまでの間に、使用されている全材料や製品からの発生物質に関する健康リスク評価をはじめ、何千時間ものテストが当社の実験室で行われています。当社は高品質の材料を使用しています。例えば、ペーパー製品に使うeリキッドは、ほとんどがEUで製造され、医薬品グレードのニコチンを用いています。

残念なことに、市場に出回る全ての製品が、このような厳格なテストをクリアしてきた訳ではなく、そうした状況は変える必要があります。

消費者が製品を信頼し、PRRPが成功を

収めるには、世界共通の製品品質基準が必要不可欠です。当社は、以下のような一貫した基準が導入されるべきだと考えています。

- これらの製品に使用されるものと製品によって発生するものを管理
- デバイスの安全性を確保
- 製品が設計・意図されたとおりに正しく機能することを保証

最近、英国において、製品基準を確立する動きがあったことを当社は歓迎しています。EUたばこ製品指令(Tobacco Products Directive)に基づき、英国の規制機関は、ペーパー製品(電子たばこ)やペーパー製品に使用される液体(eリキッド)の安全性・品質の向上を目指し、一連の要件を策定しました。当社は、全世界の規制機関に同様のアプローチをとっていただきたいと考えています。

当社に関して言えば、フランスの規格機関AFNORと英国規格協会(British Standards Institute)が作成した電子たばこに関する世界初の自主基準の公表に関し、また、ロシアにおける世界初のTHPに関する基準に関し、様々なステークホルダーと協力し合ってきました。当社は、引き続き、産業・規制当局双方と協力し、産業全体でのPRRPの品質・安全基準の策定を支援します。こうしたことは、こうした製品の成功を確実にするために当社ができる多くのことのひとつであると考えています。」



PRRPによるハーム・リダクションの可能性の最大化

科学を通じた 当社製品の信頼性の構築

PRRPによってたばこハーム・リダクションを支援するためには、PRRPが喫煙と比べて健康リスクを低減する可能性があることを科学的にしっかりと裏付けることが不可欠です。当社は、優れた科学研究プログラムを通じて、そして、その成果を公開することにより、この課題に取り組んでいます。

PRRPはたばこの燃焼を伴わないため、紙巻たばこよりも健康リスクが大幅に低い可能性があるというのが、広く認められた科学的なコンセンサスとなっています。それでもなお、消費者がPRRPを使用した場合の健康リスクがより低いかどうかを完全に理解するためには、分野横断的なリスク評価手法を採用することが不可欠です。

こうした手法の採用がとりわけ重要なのは、技術の変化や消費者ニーズの移ろいに加え、これらが比較的新しく、急速に進歩を遂げている製品だからです。

当社の分野横断的な リスク評価の枠組み

PRRPの大半は、発売後それほど時間が経っていないため、何十年にもわたって使用した場合のハーム・リダクションの可能性を立証できる疫学的データはありません。代わりに、各製品の発生物質、曝露、リスク・レベルに基づいて「根拠の重要性(weight of evidence)」の方法をとる必要があります。

まず、あらゆる製品の発生物質を調べ、ペーパーやエアロゾルの中に含まれているものを正確に特定する必要があります。次に、人間の細胞がこうした発生物質に曝露された場合どうなるのかを検証する必要があります。これが分れば、特定の製品を長期的に使用した場合の健康リスクの評価を始めることができます。各段階で、多種多様な研究を実施します。これらの全てを併せて、当社の分野横断的なリスク評価の枠組みが構成されています。

当社の科学研究のベスト プラクティスの基準

臨床試験は全て、開始前に、関連する独立の倫理委員会が承認を行います。

当社の製品試験の大半は、独立の科学研究所や研究機関によって実施されています。

研究成果については、その結果にかかわらず査読付きの科学ジャーナルに投稿し、出版に値する十分な品質を備えているかどうか、独立の専門家の評価を受けます。

当社製品の健康リスク低減の可能性の評価

当社製品の発生物質、曝露、健康リスクの評価には、査読による科学評価の枠組みを適用しています。

発生物質の低減

ペーパー／エアロゾルには、どのような物質が含まれているか？



行動科学

人々が対象製品をどのように使用するか？

消費者が対象製品をどのように使用するかを観察し、それを実験室で再現する際に役立ちます。こうすることにより、実際に使われるのと同じ方法で試験を実施できるようにします。

曝露の低減

対象製品からの発生物質に曝露するとどうなるのか？



化学

ペーパー／エアロゾルには、どのような物質が含まれているか？

ペーパー／エアロゾル中、そして、当社製品を使用後の空気中に、どのような有害性物質が含まれているかを調べます。その結果を、紙巻たばこの煙に含まれている物質と比較します。



生物科学

ペーパー／エアロゾルが実験室内の人間の細胞にどのような影響を及ぼすのか？

その試験結果と、紙巻たばこの煙が人間の細胞に及ぼす影響とを比較します。



臨床試験

製品の使用が人体にどのような影響を及ぼすのか？

実際の消費者を対象に試験を行い（例えば、血液や尿のサンプルを採取）、対象製品の使用が健康に及ぼす影響を解明します。



集団調査

製品が公衆衛生にどのような影響を及ぼすのか？

当社では、コンピュータ・モデリング手法を用い、対象製品が入手できることによって、集団レベルでの健康にどのような影響を及ぼすのかを予測します。

臨床研究を通じた科学的な前進

当社の実験室では、長年にわたり発生物質や曝露レベルに関する研究を行ってきました。しかし、PRRPが人間の健康に及ぼす影響について最も正確な洞察が得られるのは、人体への影響を調べる臨床研究の分野においてです。

当社では、既に短期間の臨床試験をいくつか実施し、当社のPRRPによる健康リスク低減について、有望な結果が得られています。例えば、5日間の試験を2回実施したところ、紙巻タバコから「glo」に切り替えた被験者の曝露レベルは、完全に禁煙した被験者とほぼ同じレベルまで低減することが明らかになりました。

さらに詳しく調べるため、これまでで最も大規模で最も手の込んだPRRP臨床試験を最近開始しました。今後実施する2件の臨床試験では、成人喫煙者を対象として、喫煙を続けたグループ、「glo」またはペイパー製品に切り替えたグル

ープ、ニコチン製品・タバコ製品の使用を完全に止めたグループの健康リスク指標の検証を1年間にわたって行う予定です。初期の結果は2019年に、全ての結果については2020年を目処に公表することを目指しています。

科学的知見の共有

良質の科学的知見がオープンに共有されてこそ、PRRPがハーム・リダクションに最大の効果を発揮できるのだと、当社は考えています。だからこそ、私たちは当社の科学的枠組みを公表するとともに、専門家が査読を通じて独立してレビューを行うジャーナルに研究成果を発表しているのです。また、様々な会議や政府の技術諮問委員会でもデータを提供しています。

現在までに、THPに関しては23件の査読付き論文を発表しており、うち13件は「glo」についての論文です。また、ペイパー製品に関しては23件の論文を発表し、うち15件は「ePen」に焦点

当社は、現在までに50件以上の論文や論文原稿を発表しています。中でも「Vype ePen」¹に関する一連の論文は、ひとつのペイパー製品に関する科学的データを紹介した文書としては、これまでに発表された中で最も包括的な資料となっています。また、当社の主力THP「glo」²に関する13件の論文のほか、THP³評価に当たっての5段階手法に関する論文も発表しています。

を当てています。加えて、ペイパー製品とTHPとを併せ、カテゴリーとしての健康リスク低減の可能性について検証した5件の論文原稿も発表しています。

社員の視点

科学もイノベーションの スピードに合わせて



マリアンナ・ガカ博士
(Dr Marianna Gaca)

前臨床評価責任者
(Head of Pre-Clinical Assessment)

「技術が急速に変化する今日、これまで以上に迅速な新製品の開発が可能となっています。

しかしながら、これは当社にとって課題となっています。健康リスク低減の可能性の検証に必要な臨床試験は、完了までに最大で5年を要する場合があり、3〜6か月の標準的な製品イノベーションのサイクルよりも所要期間が遥かに長いからです。その結果、私の健康リスク評価チームにとっては、個々の製品の影響を研究することが困難になっています。

この課題への対応に資する観点から、当社は、製薬業界など他の産業界に注目しました。こうした業界は、過去には同様の問題に直面していましたが、現在では、技術が更新されるたびに、参照となる製品と並行して一連の簡易型科学試験を行っています。この手法は「ブリッジング」と呼ばれています。

当社は、どのようにしたらこの手法を自分たちの産業に取り入れることができるか、懸命に検討してきました。適切な科学と規制が整備されれば、それ以前のバージョンをベースに新たなPRRPの健康リスク評価が可能であると考えているためです。

それでは、ブリッジングの手法を取り入れるために私たちはどのようなことをしてきたのでしょうか。私のチームは、ある製品にブリッジングが適しているかどうかを判断する一連の手順を開発するとともに、使用可能な評価手法を確立しました。私たちは、参照製品との比較でPRRPの健康リスク評価を行う手法に関し、これらの科学的評価ツール、科学的データ・結果についての知見を、ウィキ形式のウェブ上プラットフォームで共有しています。このウィキは、毒物学上の知見の枠組みを構築するためのOECDの取組みの一部を担っており、データの集積・オープンソースのインターフェースとして広く科学界に利用されています。私たちは、こうした取

「現在、BATで毒物学の研究に携わっている皆は、心躍る時を過ごしています。私たちが取り組んでいる科学が、大きな変化をもたらしつつあると感じられるからです。」

組みがOECD加盟国によるPRRPの相対的健康リスクの評価方法の確立に貢献するよう願っています。

科学界や規制機関に受け入れられれば、これらの試験は、次世代のPRRPの健康リスク評価プロセスに適用できるようになります。長い時間を要する臨床試験を行わなくても、PRRPの健康リスク低減の可能性を評価できるようになるのです。

さらに良いことに、この新手法を開発することにより、動物実験を伴わない試験方法も開発しています。私は、当社のイニシアティブが2017年にPETA国際科学コンソーシアム(PETA International Science Consortium)から表彰を受け、評価されたことを非常に誇りに思っています。

現在、BATで毒物学の研究に携わっている皆は、心躍る時を過ごしています。私たちが取り組んでいる科学が、大きな変化をもたらしつつあると感じられるからです。」

- 1 Murphy, J. et al. (2017). Assessing modified risk tobacco and nicotine products: Description of the scientific framework and assessment of a closed modular electronic cigarette. *Regulatory Pharmacology and Toxicology* 90: 342–57.
- 2 例えば、Proctor, C. et al. (2017). Special Issue: Assessment of tobacco heating product 1.0. *Regulatory Toxicology and Pharmacology* 93: 1–104. 他の論文は www.bat-science.com/library から入手可能。
- 3 Eaton, D. et al. (2018). Assessment of tobacco heating product THP1.0. Part 2: Product design, operation and thermophysical characterisation. *Regulatory Toxicology and Pharmacology* 93: 4–13.

PRRPによるハーム・リダクションの可能性の最大化

相次ぐ第三者による科学的根拠

PRRPの健康リスク低減の可能性について全てのステークホルダーに納得いただくためには、たばこ産業が実施した研究だけでは必ずしも十分ではありません。

幸いなことに、PRRPは紙巻たばこに比して健康リスクが低減していることを裏付ける第三者による科学的データも相次いで発表されており、PRRPの使用に関して人々が抱く根本的な疑問のいくつかにお答えする上で役立っています。

「PRRPは喫煙より本当に健康リスクが低いのか？」

喫煙に関連する健康リスクのほとんどは、たばこの燃焼によって生じる煙に含まれる有害性物質の吸入に起因していると、広く理解されています。たばこの燃焼を伴わない製品は、含まれる有害性物質がより少なく、喫煙の場合と比べて健康リスクが低減されている可能性があります。



「ベイパー製品、スヌース、ニコチン・ガムなどの代替的なニコチン摂取パターンにおいては、燃焼は生じません。結果として、こうした製品の消費は、紙巻たばこの消費に比べて、健康に対する危険性が大幅に減少すると見なすべきである。」
スイス中毒専門家連盟 (Swiss Federation of Addiction Professionals)²



「ベイパー製品に切り替えた喫煙者は、その喫煙者本人と周辺の人々の健康リスクを下げる可能性が高くなる。」 ニューゼaland保健省 (New Zealand Ministry of Health)¹



「…喫煙に起因する健康リスクのほとんどは、ニコチンによるものではなく、たばこの煙に含まれる他の成分によるものである。そのため、現在の喫煙者の健康および平均余命は、煙の出ないニコチン摂取源に切り替えるよう可能な限り多くの喫煙者に勧めることにより、劇的に改善する可能性がある。」
英国内科医協会⁴



「紙巻たばこからベイパー製品に切り替えることにより、人々の有害性や発がん性のある多くの化学物質への曝露は低減されるだろう。」 カナダ政府³



「燃焼を伴うたばこ製品からENDS^{*}に完全に移行する成人の数を増やすことができれば、たばこの使用に関連する疾病全体の罹患率と死亡率を大幅に減少させることができるかもしれないと考えている。」
スコット・ゴットリーブ医学博士 (Scott Gottlieb, M.D.) (米国FDA長官)⁵

「ニコチンは有害か？」

ニコチンには依存性があり、健康リスクがない訳ではありませんが、たばこに関連する健康リスクのほとんどは、たばこの燃焼に起因しており、ニコチン自体に由来するものではないことが広く認められています。ニコチンは、長年にわたって、認可医薬品に使用されてきています。



英国国立臨床研究所 (UK National Institute for Health and Care Excellence) が実施した研究によると、「健康上の問題のほとんどは、ニコチンによるものではなく、たばこの煙に含まれる他の成分に起因する。」⁶



「ニコチンには健康リスクがある可能性があるものの、たばこに起因する健康リスクの大部分は、燃焼によって生じる物質によるものであるというのが一般的な科学的コンセンサスである。」
米国がん協会 (American Cancer Society) の研究者たちによる⁷



「…ニコチンが発がん性物質であることを示す根拠はない。」
米国科学工学医学アカデミー (U.S. National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine)⁸

- 1 New Zealand Ministry of Health <https://www.health.govt.nz/our-work/preventative-health-wellness/tobacco-control/vaping-smokeless-including-heated-tobacco>.
- 2 Swiss Federation of Addiction Professionals, "Position of the federation of addiction professionals on vaping" ("Position de la fédération des professionnels des addictions sur le vapotage"からの翻訳), November 2017. https://www.grea.ch/sites/default/files/171019_positionspapier_vapotage_0.pdf.
- 3 "Vaping" Government of Canada <https://www.canada.ca/en/health-canada/services/smoking-tobacco/vaping.html>.
- 4 "Nicotine without smoke: Tobacco harm reduction" Royal College of Physicians, April 2016.
- 5 "FDA's Nicotine and Tobacco Regulation and the Key Role of Regulatory Science" Remarks by Scott Gottlieb, M.D., June 18 2018.
*「ENDS」は、ニコチン電子送達システム (electronic nicotine delivery systems) を指し、いわゆる「電子たばこ」を含む。
- 6 "Smoking: Harm Reduction" The UK National Institute for Health and Care Excellence, 2013.
- 7 Drope, J., Cahn, Z., Kennedy, R., Liber, A.C., Stoklosa, M., Henson, R. and Douglas, C.E. Key issues surrounding the health impacts of electronic nicotine delivery systems (ENDS) and other sources of nicotine. CA: a cancer journal for clinicians. 2017 Nov, 67(6): 449–71. なお、当該研究は、「本論文の内容は執筆者のみの責任によるものであり、米国がん協会のポジションを必ずしも代表するものではない。」との注釈付きで発表された。
- 8 Public health consequences of e-cigarettes, National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine, Washington, DC: The National Academies Press, January 2018.

「PRRPは禁煙の助けになるのか？」

PRRPは、満足感のある体験を提供しつつ、喫煙者が喫煙を止めるのを手助けできます。例えば、最近、英国政府は、2017年と2018年の禁煙キャンペーンの一環として、電子たばこを推奨しました。



「喫煙経験者によると、スヌースは最も推奨すべき禁煙方法であり、ノルウェーのスヌース使用者の大部分は、かつての喫煙者である。禁煙成功率は、スヌースの使用経験がない喫煙者よりもスヌース使用者の方が高いことが、一貫して観測されている。さらに、スヌース使用者は、医療用禁煙製品の使用者に比べて、喫煙を完全に止める、あるいは、紙巻たばこの喫煙を大幅に減らす傾向が強くなっている。」
カール・エリック・ルンド(Karl Erik Lund)、ノルウェー・アルコール・薬物研究所(Norwegian Institute for Alcohol and Drug Research)¹⁰



「喫煙者が電子たばこを継続的に使用するのには、喫煙を減らしたいという動機、…禁煙に向けたモチベーションの高まり、喫煙依存の低下と関係している。」
キングス・カレッジ(King's College)およびASH UK⁹



「科学的根拠は今も明らかになりつつあるが、いくつかの根拠によると、電子たばこの使用と禁煙成功率の向上との間には関連があることが示唆される。」 カナダ保健省³



「こうした数字の扱いには注意が必要であるが、英国においては、電子たばこによってさらに何万もの人々が禁煙に成功したことが、科学的根拠によって示唆されている。」
イングランド公衆衛生庁¹¹

「PRRPによって未成年者の喫煙が促されるのか？」

電子たばこの試用から日常的な喫煙につながる可能性があるかと懸念するステークホルダーもいます。しかし、電子たばこは喫煙へのゲートウェイ(入口)となる製品とはならないことを裏付ける強力な科学的根拠があります。実際に、未成年者を含め、ベイパー製品の使用の増加と喫煙率の減少との間には関連があることが、多くの研究から明らかになっています。



「これまでに得られた子供や青少年による電子たばこの使用に関する科学的根拠によると、英国で集められた全ての根拠、また海外の根拠でもほぼ全てにおいて、電子たばこがゲートウェイ効果によって新世代のたばこ喫煙者を生むという懸念は、少なくとも現在までのところ、裏付けられていない。」 英国内科医協会¹²



米国科学工学医学アカデミーは、ベイパー製品の試用と紙巻たばこの関係について報告を行っているが、「燃焼を伴う紙巻たばこの使用経験がある未成年者および若年成人の電子たばこ使用者において、電子たばこの使用が、今後短期間に、その後の紙巻たばこの喫煙期間を増やすとの根拠はわずかである」ことも認めている⁸。



「英国で行われた調査によると、一貫したパターンが見つかっていない。つまり、電子たばこを試してみても、その大半は日常的な使用にはつながらず、そして、喫煙経験のない青少年の間での電子たばこの日常的な使用は引き続き非常に低い。」 1万人のティーンエイジャーを対象とした調査結果、スターリング大学(University of Stirling)において発表¹³



「『ベイパー・デバイスを試しに使用してみた未成年者が、その結果、たばこの使用を始める傾向が強い』というゲートウェイ効果を裏付ける根拠は、一切ない。」
カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州中毒症研究センター(Centre for Addictions Research of BC)¹⁴

9 Simonavicius et al. What factors are associated with current smokers using or stopping e-cigarette use? *Drug and Alcohol Dependence* 173 (2017) 139–43.

10 Tobacco harm reduction in the real world: has the availability of snus in Norway increased smoking cessation? Karl Erik Lund, Norwegian Institute for Alcohol and Drug Research, Oslo, Norway DOI: 10.1108/DAT-02-2013-0006.

11 McNeill, A., Brose, L.S., Calder, R. et al. "Evidence review of e-cigarettes and heated tobacco products 2018." A report commissioned by Public Health England, 2018.

12 "Nicotine without smoke: Tobacco harm reduction" Royal College of Physicians, April 2016.

13 Young People's Use of E-Cigarettes across the United Kingdom: Findings from Five Surveys 2015-2017, Bauld, L. et al., *International Journal of Environmental Research and Public Health*, August 2017.

14 O'Leary et al. (2017). Clearing the Air: A systematic review on the harms and benefits of e-cigarettes and vapour devices: Victoria, BC: Centre for Addictions Research of BC.

PRRPによるハーム・リダクションの可能性の最大化

効果的な規制と責任を伴った成長の重要性

PRRPがハーム・リダクションに寄与する可能性を最大化する上で、政府や公衆衛生関連のコミュニティは、たばこ産業とともに重要な役割を担っています。PRRPが成功を収めるためには、責任を伴った成長を可能とし、十分な情報に基づいて消費者が選択することを促すような、効果的な規制・政策体制に支えられていなければなりません。そして、たばこ産業が責任を持って実践することにより、これを補完する必要があります。

英国のように、規制機関や保健関連省庁が、禁煙キャンペーンにおいて一部のPRRPを上手く利用している市場も既にあります。また、喫煙の代替手段としてのPRRPの価値が科学的にますます明らかにされていることから、他の市場、例えばカナダやニュージーランドにおいても、政府がPRRPの禁止を撤廃しつつあります。

その結果、厳格な品質・安全基準の下でのPRRPの市販を認め、PRRPへの切替えのメリットを消費者に効果的に伝えることができる政策・規制が形成されつつあります。しかし、世界の多くの地域においては、政府は、PRRPをどのように規制するかについてまだ不明確です。

効果的な規制枠組みの必要性

PRRPがたばこハーム・リダクションに寄与するには、広く市販される必要があり、そのためには、政府が効果的な規制枠組みを確立する必要があります。

この枠組みは、代替製品が手頃な価格で入手でき、そのメリットや健康リスクが明確に理解され、製品が差別化され、それぞれの健康リスクに応じた課税を行うことが可能となるものでなければなりません。

政府、たばこ産業、公衆衛生の専門家、そして科学界は、効果的な規制枠組みの構築に寄与する上で、また、喫煙者の健康リスクを低減する可能性をPRRPが確実に果たすようにする上で、以下に示すように、それぞれ役割があります。

規制・政策の策定においてたばこ産業が果たすべき役割

最も効果的な規制を策定するためには、あらゆるステークホルダーからの情報の提供が必要となります。製品・カテゴリーについて詳しい知識を持つ一企業として、製品や消費者による購入双方に影響を与える法律案や政策について、当社が見解を示すことは重要と考えます。

当社は、政府や他の機関から、技術データや研究結果の提示や、新しい政策の策定プロセスにおける知見の提供を求められることも多くあります。

その例として、パイパー製品の新たな品質・安全基準の策定に関しての、英国規格協会(BSI)、フランスの規格機関AFNOR、国際標準化機構(International Organization for Standardization:ISO)、欧州連合の規格機関(CEN)との協力が挙げられます。英国とフランスの基準は、それぞれ2015年と2016年に発表されました。また、ISOのパイパー製品基準、および、CENのパイパー製品のエアロゾルの測定に関するガイダンス文書の策定にも貢献しています。これらはともに2018年9月に発表されたもので、2019年初めにはさらに別のCENの基準が発表される予定となっています。

このような状況の中、当社は、政策の策定に対して価値のある貢献を行うことができたと考えています。また、様々なステークホルダーが参加するプロセスを経ることによって、マーケティングの自由度を確保しながら消費者を保護する適切な枠組みの導入が実現できたと考えています。当社は、こうした取組みがさらに広がっていくことを願っています。また、ステークホルダーとの協働に関し、新たな方法に対して常にオープンです。

様々なステークホルダーの協力の必要性

PRRPがハーム・リダクションの可能性を達成する上では、以下が必要です。

政府: 品質・安全基準に基づいて適切な製品規制を確立すること、PRRPの健康リスク低減の可能性に応じた財政政策(課税など)を導入すること、PRRPがリスクのより低いニコチン摂取の方法となりうることを消費者に伝えられるようにすること。

産業: 切替えを考える可能性のある喫煙者に対し、喫煙と同様の感覚的体験を提供することができ革新的な製品を開発すること、PRRPの健康リスク低減の可能性を裏付ける科学的知見を共有すること。

公衆衛生の専門家: PRRPの潜在的メリットについて、政府や一般市民の啓発に取り組むこと。

科学界: あらゆるPRRPを対象に、より多くの独立した研究を行うこと、既存の研究を定期的に更新すること。

たばこハーム・
リダクション

特集

英国における効果的な政策を通じた禁煙の成功

英国は、喫煙率がヨーロッパで2番目に低く、ペイピングに関しては最大の市場です。これは、規制当局と公衆衛生機関が協力してPRRPの成長を支援し、ハーム・リダクションに取り組んだ結果、どのようなことが達成できるかを示す実例です。

イングランド公衆衛生庁(PHE)と英国内科医協会が発表したペイパー製品の健康リスク低減の可能性に関する主要な報告書は、煙が発生しないニコチン製品に関する議論の下地となりました。先進的な規制手法と相まって、こうしたことが、英国における紙巻タバコ離れを牽引しています。

現在では、公衆衛生機関、英国議会下院、さらには反喫煙のNGOも加わって、PRRPによる禁煙支援の可能性についての議論や協力が行われています。

英国政府は、電子タバコに関する科学的データのレビューを毎年実施しており、議会下院の科学技術委員会は、このレビューをTHPIに拡大することを勧告しました。また、THPIに関し、PHEや有害性委員会の監督の下で長期的な研究プログラムを行ってはどうかという意見もあります。

しかし、依然として、規制上の障壁の見直しの必要性が残されています。とりわけ、紙巻タバコと比較して健康リスクが低減するとの疫学的根拠を有する製品であるスヌースに関し、心強いことに、最近、議会下院の科学技術委員会が、その禁止撤廃について科学的根拠に基づく評価を行うよう要請しました。²

PRRPの望ましい規制

こうした重要な製品の成長を支援し、社会全体で予測されるタバコ関連の健康リスクの低減に貢献するためには、効果的な規制の枠組みが必要です。当社は、効果的なPRRPの規制の枠組みは、以下を実現するものであるべきだと考えています。



品質・安全基準

確固たる科学に基づき、消費者の安全と信頼を確保すること。



流通の自由

タバコやニコチンの消費を続けたいと考えている喫煙者が、紙巻タバコを購入できる場所であればどこでも、PRRPを簡単に入手できること。



イノベーションの自由

消費者により多くの選択肢を届けるとともに、変化する消費者のニーズや嗜好を満足させること。



成人のみを対象とする責任あるマーケティング

成人の消費者のみを対象とするマーケティングおよび広告の規則。



協力やコミュニケーションの自由

官民間の協力が可能で、意味のある情報が消費者に提供されること。



実行可能な規制

当社は、規制機関、産業、消費者にとって、実行可能で現実的な規制を支持します。



適切な税制

PRRPの相対的な健康リスクを反映し、PRRPの普及を妨げる可能性がある価格の上昇をもたらさないこと。

1 Press Association, Smoking rate in UK falls to second-lowest in Europe, 15 June 2017, <https://www.theguardian.com/society/2017/jun/15/smoking-rate-in-uk-falls-to-second-lowest-in-europe>.
2 The House of Commons Science and Technology Committee, Seventh Report of Session 2017–2019 on e-cigarettes, July 2018.

PRRPによるハーム・リダクションの可能性の最大化

責任あるPRRPのマーケティング

PRRPについては、未成年者に対するマーケティングが行われないようにすることが不可欠です。これを実現するための十分な基準が導入されていない市場においては、当社は、責任あるマーケティングと未成年者のアクセスに関する産業全体での基準を歓迎します。

PRRPに切り替える喫煙者を増やし、PRRPを成功させる上で、そのメリットを消費者に広く伝えることは、欠くことができません。責任あるPRRPのマーケティングに関しては、伝える「内容」だけでなく、その「方法」も検討する必要があります。

責任あるコミュニケーションの必要性

消費者が十分な情報に基づいて健康に関わる選択ができるようにし、代替製品 (PRRP) への切り替えを奨励していくためには、その健康リスク低減の可能性に関する事実を消費者に慎重に伝える必要があります。

第三者による研究 (公衆衛生関連機関によるものを含む) から、喫煙者の多くは依然としてPRRPに懐疑的で、「喫煙と同様に有害であると誤って信じている喫煙者さえいる」¹ ことが明らかになっています。

第三者による研究から、以下のことが明らかになっています。



「喫煙者10人のうち4人が、喫煙に関連するがんの多くはニコチンによって引き起こされているという誤った考えを持っているが、実際は、ニコチンが健康に害を与えるリスクは最小限であるとの根拠が得られている … 電子たばこは、たばこの煙に含まれる最も有害なふたつの要素、タールと一酸化炭素を含んでいない。」
マーチン・ドックレル (Martin Dockrell)、
イングランド公衆衛生庁たばこ規制プログラム責任者 (Tobacco Control Programme Lead for Public Health England)¹



ウィスコンシン大学 (University of Wisconsin) のたばこ研究・治療介入センター (Center for Tobacco Research and Intervention) とカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) の禁煙指導センター (Smoking Cessation Leadership Center) の研究者は、「ハーム・リダクション (全てのニコチン含有製品が同等な訳ではない) について理性的に伝えるには、燃焼を伴うたばこ製品の使用を止める個人が、FDAが承認した医薬品、電子たばこ、無煙たばこ製品をいつまでも使用することになったとしても、公衆衛生上は燃焼を伴うたばこ製品の排除に焦点を当てるべきである」² と勧告した。

BATにとっての責任あるマーケティングとは？

マーケティングにおいて成人喫煙者のみを対象とすることは、長年にわたり、当社の一連のマーケティング国際原則 (International Marketing Principles; IMP) の基本要件のひとつとなっています。PRRPの重要性を踏まえ、当社は最近、別々にあった規準すべてをひとまとまりの原則の下に取りまとめました。その中心に据えられているのが、子供を対象としたたばこ製品やニコチン製品のマーケティングは絶対に行わないという当社の約束です。

今日、ソーシャル・メディアが身近なものとなり、広く利用されています。私たちが成人喫煙者の目をPRRPに向けさせようとするのであれば、産業は、ソーシャル・メディアをはじめ成人喫煙者が利用している媒体を経由して、コミュニケーションを図ることができなければなりません。

当社では、ソーシャル・メディアを使用することができるのは、紙巻たばこブランドについての広告を一切伴わない活動においてのみであることを明確にしています。当社のPRRPに関してソーシャル・メディアにおけるインフルエンサーを利用する場合、そのパートナーシップが適切であることを、また成人しかターゲットとしないことを保証するため、厳格な管理を導入しています。そのため、分析ツールを用いて、そのインフルエンサーのフォロワーやファンの大多数が成人であることを確認しています。

また、デジタル・マーケティング・ツールキットも用意しています。これには、Eコマース用ウェブサイトを有している場合など、当社の市場がマーケティング原則をオンライン活動に適用する際の詳細なアドバイスが含まれています。コンテンツに関する基準、ソーシャル・メディアや検索エンジンの利用、十分な年齢確認を保証するための要件などが網羅されています。



1 Martin Dockrell on *Public health matters: Clearing up some myths around e-cigarettes*, <https://publichealthmatters.blog.gov.uk/2018/02/20/clearing-up-some-myths-around-e-cigarettes>, 20 February 2018.
2 Michael C. Fiore et al. *Smoke is the Chief Killer: Clinical and Policy Strategies that Target Combustible Tobacco Use*, September 2015.

今後の方向性

ハーム・リダクションの未来の形成

BATグループの科学・研究開発ディレクター(Group Scientific and R&D Director)であるデイビッド・オライリー博士(Dr David O'Reilly)が、当社の製品イノベーションと科学のチームを率いています。ここでは、私たちの産業の改革について、そして、それがBATにとって持つ意味について、彼の見解を紹介します。

Q&A



デイビッド・オライリー博士
(Dr David O'Reilly)
グループ科学・研究開発ディレクター
(Group Scientific and R&D Director)

たばこハーム・リダクションの未来について、BATはどのように考えているか？

私自身、ダイナミックに進化を続ける現在の消費者や技術の状況にとっても興奮しています。今日、イノベーションはBATの中心に位置づけられています。当社のポートフォリオには、既に多様なPRRPが揃っており、さらにパイプラインには新境地を開くと期待される画期的な製品群が控えています。

当社の新ペーパー製品「Vype iSwitch」は、「ピュアテック(Pure Tech)」と呼ばれる世界初の技術を基盤としています。金属板技術を採用しており、コイルや芯を使った従来型のeリキッド加熱方法を使用していない最初の製品です。この技術は優れた満足感をもたらすとともに、有害物質が他のペーパー製品よりもさらに少ないことから、パイピングに大改革をもたらすと信じています。

加熱式たばこ製品(THP)については、改良した新型のものや小型化したデバイスを発売する予定です。これらの製品の開発は、消費者の嗜好に関する研究に基づいたものです。また2019年は、デザインを全面的に見直した「ifuse」の発売を計画しています。

BATがハーム・リダクションやたばこの改革に真剣に取り組んでいるのであれば、なぜ紙巻たばこの販売をやめないのか？

これから先も紙巻たばこが当社のビジネスにとって重要な役割を果たし続けることは明らかです。今後もPRRPのための投資資金の重要な供給源であり続けるでしょう。

紙巻たばこ販売の中止は、現時点では商業的に実現可能ではない、あるいは、現実的ではないと考えています。これは、言うほどには簡単ではありません。これらの製品に対する消費者のニーズは依然として存在するため、当社が紙巻たばこの販売を中止すれば、そのまま競合他社に需要が流れるか、悪くすれば、ブラック・マーケットに流れるでしょう。そして多くの市場では、今も実際にPRRPの発売を妨げる規制上の障壁があるのです。

そうした理由により、当社はビジネスの改革への取組みと並行して、その改革の間、燃焼を伴うたばこのビジネスも継続してまいります。

「当社のポートフォリオには、既に多様なPRRPが揃っており、さらにパイプラインには新境地を開くと期待される画期的な製品群が控えています。」

なぜ、もっと多くの市場でPRRPを販売しないのか？

当社は、総力をあげてPRRPを推進しています。当社のPRRPは、既に28の市場で市販されています。また、できるだけ多くの市場で、現実的に可能な限り迅速に、PRRPの発売を進めています。当社が優先しているのは、適切な規制の枠組みが整備され、消費者の変動が大きいマーケットなど、最も将来性の高い市場です。当社は、コミュニケーション、製品、価格設定の適切な組み合わせを設定するために懸命に努力しており、どの地域であっても、発売に当たっては「試行・学習(test and learn)」戦略を採用しています。

しかしながら、英国や米国などの国々ではPRRPが紙巻たばこよりも大幅に健康リスクが低い可能性があるとの根拠が相次いでいるにもかかわらず、多くの市場においては、現地の法制度によ

ってPRRPの発売が認められていません。だからこそ、PRRPの可能性を最大限に発揮し、ハーム・リダクションに貢献していくためには、PRRPを支援する規制環境が不可欠なのです。

PRRPは葉たばこ農家に影響を与えるか？

PRRPの成長には大きな確信を持っていますが、当面の間は、当社と取引のある葉たばこ農家にすぐさま影響が及ぶとは予想していません。重要な点として、当社のTHPは高品質の加工葉たばこを使用していること、またペーパー製品はたばこから抽出されたニコチンに頼っていることを忘れないでいただきたいと思います。そしてもちろん、既にお話ししました通り、当社ビジネスのかなりの部分は、今後何年にもわたり紙巻たばこであり続けると考えられます。

どうすれば、PRRPがその可能性を最大限に発揮してハーム・リダクションを支援できるか？

当社のイノベーション能力、改革を成し遂げた研究開発チーム、そして長年蓄積したニコチンとたばこについてのあらゆる側面に関する専門知識により、当社は優れた立場にいます。当社は、ビジネスとたばこ産業を改革し、たばこハーム・リダクションへの貢献において当社のPRRPの可能性を実現するため、大きな変化をもたらすことに全力を傾ける所存です。

成人喫煙者が、公衆衛生の専門家からのしつかりとした助言に基づき、十分な情報を得た上で切替えの選択を行うことが極めて重要だと考えています。喫煙者がPRRPに関する知識を持っていなかったり、PRRPについて誤解していたりすると、PRRPが採用されるペースが遅くなるおそれがあります。

当社は、引き続き非常に優れた製品を提供していきます。また、健康リスクの科学評価の強固な枠組みを構築したり、当社が持つ科学的知見を共有したりして、より広範なたばこハーム・リダクションの議論に貢献していきます。

今後の方向性

当社のたばこハーム・リダクションへの取り組み

当社は、喫煙に代わって楽しむことができる幅広い代替製品を提供することが、多数の消費者による喫煙からの切替えを促す正しい方法だと考えています。

製品、ビジネス、そして産業の改革を進める中で、当社は以下を行います。

1

紙巻たばこに代わって楽しむことができるとともに、喫煙と比べて健康リスクが大幅に低減する可能性がある幅広い代替製品の開発と商品化に、引き続き投資を行います。

実行内容

- 既にパイパー製品、THP、オーラル製品を販売している世界中の市場に加え、新市場におけるPRRPの発売を可能な限り迅速に進めます。
- 今後も新たなイノベーションの機会を開拓するとともに、消費者に関する知見を得るための手法を開発・改良し、当社のイノベーション能力を強化していきます。
- ビジネスの改革を進めるに当たり、イノベーション能力を活かしていくための適切な知見とスキルを確保します。

今後も新たなイノベーションの機会を開拓するとともに、消費者に関する知見を得るための手法を開発・改良し、当社のイノベーション能力を強化していきます。



2

当社PRRPの喫煙に対する相対的な健康リスクを研究します。その結果として得られた科学的知見を公表するとともに、第三者による精査を歓迎します。

実行内容

- エアロゾルが消費者や周辺環境に及ぼす影響について、さらなる研究に着手します。研究結果は、2019年を通して公表します。
- 人間の細胞を、最初はたばこの煙に、その後「glo」の発生物質や空気に切り替えて曝露させる、長期的な管内試験を実施します。研究結果は2019年に公表します。
- 曝露の低減がどの程度の長期的な健康リスクの低減をもたらすかを評価するため、パイパー製品とTHPの両方を対象に、12か月間にわたるふたつの臨床試験を実施します。初期の結果は2019年に受け取り、2020年に公表することを目指しています。
- 日本で全国的に実施し、THPの使用の影響を大規模に調査した集団モデル研究の結果も公表します。

曝露の低減がどの程度の長期的な健康リスクの低減をもたらすかを評価するため、パイパー製品とTHPの両方を対象に、12か月間にわたるふたつの臨床試験を実施します。初期の結果は2019年に受け取り、2020年に公表することを目指しています。





本レポートのPDFファイルは
bat.com/sustainability
にてダウンロードできます。

3

規制機関と対話を行い、PRRPの潜在的メリットについての認識の向上を図ります。

実行内容

- ・新政策・規制の策定プロセスにおいて当社の知見を活かしていただくため、技術データや研究成果の提供を続けます。
- ・国または世界レベルでペーパー製品やTHPに関する品質・安全基準の策定を行っている様々なステークホルダー・グループへの関与を継続します。
- ・外部の会議・会合に参加した場合、発表資料は全て、引き続きbat-science.comを通じて公開します。

外部の会議・会合に参加した場合、発表資料は全て、引き続きbat-science.comを通じて公開します。



4

責任を持ってPRRPのマーケティングを行い、成人消費者が十分な情報に基づいて選択を行うことができるようにします。

実行内容

- ・引き続き、責任あるマーケティングを最高の水準で実施するとともに、その手法の透明性を保ちます。2019年には、当社が採用している責任あるマーケティングに関して別々にあった規準をひとまとまりの原則の下に取りまとめた「マーケティング国際原則 (IMP)」の最新版を公表します。
- ・当社のIMPと未成年者アクセス防止 (Youth Access Prevention; YAP) ガイドラインの完全遵守を目指します。IMPに対する違反行為の有無やYAP活動を実施した市場の割合など、これらの目標に対する実績をサステナビリティ・レポートにおいて引き続き公表します。
- ・引き続き、デジタル・マーケティング・ツールキットを使用します。ツールキットには、ソーシャル・メディアの利用や、Eコマース用ウェブサイトを持している場合の確実な年齢確認など、当社の市場がIMPをオンライン活動に適用する際のガイダンスが記載されています。

当社のIMPと未成年者アクセス防止 (Youth Access Prevention; YAP) ガイドラインの完全遵守を目指します。



bat.com/sustainability

当社のサステナビリティに関するアジェンダとイニシアティブに関するより詳細な情報をご覧ください。



パフォーマンス・センター

目標に対する進捗、実績表、グローバル・レポート・イニシアティブ (Global Reporting Initiative: GRI) に関する報告、独立保証に関する声明と保証に対する当社の対応については、こちら。

 bat.com/sustainability/data



お問い合わせ先

ジェニー・ガルブレイス (Jennie Galbraith)
エルヴィン・オーゼンソイ (Elvin Ozensoy)

British American Tobacco
Globe House, 4 Temple Place
London WC2R 2PG, United Kingdom

 sustainability@bat.com

 +44 (0)20 7845 1000



サステナビリティ・レポート

当社のサステナビリティ戦略と、その3つの主要分野であるハーム・リダクション、持続可能な農業と農業従事者の生計、企業としての行いについては、こちら。

 bat.com/sustainabilityreport



フォーカス・レポート

当社グループのサステナビリティ・アジェンダの特定分野に関するより詳細な情報はこちら。

 bat.com/sustainabilityfocus



年次報告書

当社グループのビジョン、戦略、ビジネス・モデル、ガバナンス、主なリスク要因、財務報告については、こちら。

 bat.com/annualreport

 @BATPress
@BAT_Sci

 youtube.com/
welcometobat

 flickr.com/
welcometobat

本レポートについて

本レポートは、ブリティッシュ・アメリカン・タバコ (British American Tobacco p.l.c.) が作成したものです。関連会社は含まれていません。[British American Tobacco (ブリティッシュ・アメリカン・タバコ)] [BAT] [we (当社は)] [us (当社を)] [our (当社の)] などの言及は、意見を示す場合、ブリティッシュ・アメリカン・タバコ (British American Tobacco p.l.c.) (当社と子会社とを合わせた場合は「グループ (Group)」と言う) を指します。たばこ事業活動を意味する場合はグループの事業会社を指しますが、状況に応じて、全体を指す場合も、個別の会社を指す場合もあります。本レポートには、作成時に入手できた知識・情報を反映した当社の意図、信念、現時点の予想について、また、とりわけ見込み、成長、戦略に関して、1934年米国証券取引所法 (United States Securities Exchange Act of 1934) セクション21Eの定義に該当する一定の将来の見通しに関する記述が含まれています。BATは、新たな情報、将来の事象等の結果として、これらの将来の見通しに関する記述を更新し、または修正する義務を負いません。

これらの記述には、全てではないにせよ多くの場合、[believe (考える)] [anticipate (想定する・予測する)] [could (ありうる)] [may (かもしれない)] [would (だろう)] [should (はずである)] [intend (意図する)] [plan (計画する)] [potential (可能性がある)] [predict (予測する)] [will (予定である)] [estimate (推定する)] [strategy (戦略)] などの語句や類似的な表現が用いられています。本レポートに記載されている予想は妥当であると考えられますが、幅広い要因によって影響を受ける可能性があり、実際の結果が現在の想定とは大幅に異なる場合があります。影響を及ぼす可能性がある要因としては、悪影響を及ぼす国内あるいは国際的な法規制、国内または国際的な規制機関による不利な決定、(研究開発の不成功、健康リスクの科学評価の強固な枠組みの構築の失敗等の結果を含め) BATのイノベーション (PRRPおよび燃焼を伴う製品) の進展および展開の失敗などが挙げられます。



本レポートの資料は、当社に関する情報をステークホルダーのみを対象として提供することを目的としたものであり、一般消費者向けのものではありません。当社、あるいは、当社の役員、社員、代理人、アドバイザーは、本資料を提示された、あるいは、受け取った他者に対して一切の責任を負いません。また、その責任または法的責任は全て、明示的に否認します。本レポートの資料は、製品の広告、販売促進、マーケティングを目的に提供されたものではありません。本資料は、当社製品の販売の提案、または、購入の提案の要請を意味するものではなく、また、そのように解釈してはなりません。当社の製品の販売に当たっては、必ず、販売する特定の法域の法律を遵守しています。